

## 若手人材育成部会・研究支援報告書

氏名	蘇平
所属大学名	大阪大学
職位または学年(学生の場合)	D3
申請内容(渡航先、参加学会、ワークショップ等)	論文投稿
実施年月日	2022年1月8日 ; 2022年3月
内容報告	<p>中国青海省の幼稚園に通う3~6歳児の養育者に中国版子ども眠り質問票(JSQ-P-C)を配布、3,827名分が回収された。その中で、チベットの人口の80%以上が生活する海拔2,000mから3,000mで生活する児961名分を用いて標準化を行なった。JSQ-P-Cの因子構造は、探索的因子分析(EFA)を用いて評価した。主成分分析により因子を抽出し、バリマックス回転を適用した。信頼性はCronbachの<math>\alpha</math>で評価し、各因子の判別妥当性は異質・単質相関比(HTMT)で評価した。その結果、I.不眠、II.レストスレッグス症候群(RLS)、III.閉塞性睡眠時無呼吸、VI.日中の過度の眠気、V.朝の症状、VI.日中の行動、VII.睡眠不足、VIII.睡眠習慣の8つの下位尺度が得られた。JSQ-P-Cは良好な内的一貫性を示した(Cronbach's <math>\alpha = 0.917</math>, 39項目)。各項目のCronbachの<math>\alpha</math>は0.61から0.86の間に分布していた。「昼寝を2回以上する」という項目は因子負荷量が低いため、除外し、38項目でEFAを実施した結果、バーレットの球形性検定が有意(<math>\chi^2</math>値=15503.216, <math>p &lt; .001</math>)、Kaiser-Meyer-Olkinが0.938、累積寄与率が58.35%であることが示された。また、任意の2要因のHTMT値は<math>&lt; 0.85</math>であった。JSQ-P-Cの信頼性および弁別的妥当性が示された。本研究で、JSQ-P-Cは、良好な内部一貫性を有しチベット人児童に使用できる有効な質問紙であることが示された。これらの結果は英文誌2報にまとめ、一報は掲載され、もう一報は投稿準備中である。</p>
備考	